

＜今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙Ⅱ8章1-7節＞  
年の初めに読むにふさわしい箇所です。最初の2節から聞きます。

1 (1) パウロは、神様の私たちへの恵みを何よりも考えている！

「兄弟たち、マケドニア州の諸教会に与えられた神の恵みについて知らせましょう」(1)。大事な出だしの文章です。今日の箇所には「恵み:カリス」という単語が4回も出て来ます(1, 4, 6, 7節)。1節以外は「慈善の業」と訳されています。「恵み」と「慈善の業」が同じ単語なんて妙な気がします。パウロはこの単語(カリス)でまず、神様が御子イエス・キリストによって私たちに与えて下さった恵みを考えています。「あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は豊かであったのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、主の貧しさによって、あなたがたが豊かになるためだったのです」(9)。聖書において初めて出会う神様の私たちへの恵みです。この神様の恵み(愛し、赦し、支え、導き給う恵み)を知った時、私たち自身も他者に注ぐ恵みを考える者となれます。これこそが一番大きな恵み、幸いです。

2 (2) 単純素朴に生きて行くなら大丈夫！ その理由を悟る。

「彼らは苦しみによる激しい試練を受けていたのに、その満ち満ちた喜びと極度の貧しさがあふれ出て、人に惜しまず施す豊かさとなったということです」(2)。この神様の恵みを知った喜びが、マケドニアの信仰者たちに、極度の貧しさの中にあるにもかかわらず、「人に惜しまず施す豊かさ」を生み出したのです。普通では考えられないことです。ここは直訳すると、「激しい試練の中にあって、彼らの満ち満ちた喜びと極度の貧しさが、彼らに単純素朴さを有り余るほど与えることになった」となります。「人に惜しまず施す」と訳されている元の語は「単純・質朴・率直・真心」という意味の単語です。神様がイエス・キリストによって与えて下さった恵みを知ったら、その恵みへの感謝の思いから、もう「どのようにうまく生きようか、あの人はどう考えているのだろうか」など複雑に考えるのではなく、単純に、素直に考え、他者に対しても単純に向かって生きて行けるようになったというのです。

今年もなおしばらくはコロナが続くでしょう。鬱陶しく、気分も滅入る時があるかもしれませんが、イエス様が私たちの救いのために十字架の苦しみを負って下さったことを思い、初代の信仰者たちが悟った「神の恵み」を私たちも思い巡らしながら歩いて行こうではありませんか！